

制度の今後の課題に関する報告を行なった。日本の生活困窮者支援の実態に対し深い洞察ができ、各国の参加者の関心を引き起こした。

■ヨハネス・キーナー(都市研究プラザ特別研究員(若手)/文学研究科後期博士課程)



1926年築の建物を利用する大淀寮の外観

From February 20 to 22, the URP hosted "The Third International Workshop on Constructing the East Asian Inclusive City Network. The Workshop's themes focused on support for socially disadvantaged groups, housing efforts to tackle housing poverty, and practices for community regeneration. In addition, four excursions and complementary lectures were held in Osaka's inner city areas. Once again, many researchers and professionals from Japan, Korea, Taiwan and Hong Kong participated to elaborate on their specific cases, followed by intensive discussion. Next workshop will be organized in Hong Kong to finalize the construction of the Inclusive City Network.

イベント・研究会の予定

各詳細は、都市研究プラザホームページをご覧ください。

4/28	ビッグイシュー基金・市民ボランティア講座:釜ヶ崎から社会を学ぶ ...西成プラザ	第3ユニット
5/10 ~12	Self-portrait Vol.2 ...大阪市立大学高原記念館	第2ユニット
5/11	インクルーシブ・カフェ ...アトリエコーナス(阿倍野区)	第1ユニット
5/18 ~19	日本居住福祉学会第13回全国大会 ...大阪市立大学学術情報総合センター	第3ユニット
5/31	第2回 都市創造性学会大会 ~6/1 ...ロンドン大学キングス・カレッジ	

特別研究員(若手)公募

URP特別研究員(若手)募集要項(平成25年8月募集分)は、2013年7月に公表を予定しています。情報⇒<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html>
■URP-Newsletterの次号発行(電子版のみ)は2013年8月の予定です。

本号に記された各氏の所属・肩書は、2013年3月末時点のものであります。

URP・Infomation

第2回 都市創造性学会大会 / Association for Urban Creativity: The 2nd Annual Conference at King's College Londonのご案内

イギリス、ロンドン大学キングス・カレッジにおいて、都市研究プラザ共催により、第2回都市創造性学会大会 / Association for Urban Creativity: The second Annual Conference を行います。今回は、"New directions for research on Cities, Societies and Cultures"をテーマとし、都市や文化創造の新たな課題に目を向けていきたいと考えています。

【開催日程】 2013年5月31日-6月1日

【会場】 ロンドン大学キングス・カレッジ
(<http://www.kcl.ac.uk/campuslife/campuses/strand/StrandCampusLocation.aspx>)

【使用言語】 英語

【発表者(予定)】

Edmond Preteceille(パリ政治学院教授)
Francesco Bandarin(UNESCO事務局長補)
Andy Pratt(ロンドン大学キングス・カレッジ教授)
Allen J. Scott(カリフォルニア大学LA校教授)
Lily Kong(シンガポール国立大学副学長)
ほか計41名
詳細はホームページ(<http://www.urban-creativity.org/>)
を御覧ください。

【お問い合わせ】

都市研究プラザ AUC事務局担当
Website: <http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>
E-mail: auc@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

URP

Osaka City University | Urban Research Plaza
大阪市立大学 | 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が2006年4月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。2007-11年度グローバルCOE拠点「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」の実績をさらに発展させ、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>

558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 tel.06-6605-2071
e-mail: office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp
所長 佐々木雅幸 副所長 水内俊雄 岡野 浩 富田常雄
ユニット長 1U 佐々木雅幸 2U 嘉名光一 3U 水内俊雄 4U 岡野 浩
大阪市立大学 都市研究プラザ ニュースレター 第19号
編集委員会 佐藤由美 野村侑香
<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/>

URP Newsletter Issue 19, May. 2013

大阪市立大学 都市研究プラザ ニュースレター 第19号 2013年5月

第3回ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」市民ワークショップ 「社会的企業における創造性～betterな生活と居住へ～」

The 3rd Roundtable Conference on 'Opening the Century of Cities' Citizens' Workshop on 'Creativity in Social Enterprises: towards better livelihood and housing'

2013年2月2日(土)午前、都市研究プラザと大阪国際交流センターの共催による市民ワークショップ「社会的企業における創造性～betterな生活と居住へ～」が同センターにおいて開催された。2010年度から始まった国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」の第3回の一部で、2012年11月30日～12月1日のシンポジウム「居住貧困を断ち切る：居住福祉政策と居住支援型社会的企業の実践」の後半のプログラムとして企画・実施されたものである。

広く市民に社会的企業の実態や意義、将来性を認識してもらうことを目的とし、特に「アジア」という視点に強調点が置かれた。すなわち社会的企業の制度、活動で先進的な韓国のほか、インドネシア、タイから実務家を招き、日本のケースと照合しながら社会的企業への理解を深めようとしたのである。社会的企業は各国において概念や実態が異なり、その多様性の理解が今後の展開においてキーとなると思われるからである。

ワークショップは、中川真(都市研究プラザ兼任研究員/文学研究科教授)がコーディネーターを務め、パネリストとして、「楽しい文化学校ジャバルテ」代表の崔賢洙氏(韓国)、「Magno」社長、デザイナーのシンギ・カルトノ氏(インドネシア)、「セマタイ・マリオンネット」代表、ディレクターのニミット・ピピットクン氏(タイ)、「POS 建築観察

設計研究所」代表の大川輝氏、「デザイン事務所 NOSIGNER」代表の太刀川英輔氏らを迎えて行われた。

全ての発表に共通したのはコミュニティとの深いかわりである。弱っている個人やコミュニティに社会的企業が積極的に介入し、賦活・支援している実態が浮き彫りとなった。市民との熱心な質疑応答があった。午前の発表交流に続き、午後には此花区と西成区の現場に市民とともに訪れた。

■中川 真(都市研究プラザ兼任研究員/文学研究科教授)

On February 2, 2013 a Citizens' Workshop on 'Creativity in Social Enterprises: towards better livelihood and housing' was held at the Osaka International House (hosted by the Urban Research Plaza and the Osaka International House Foundation).

Professor Shin Nakagawa (Osaka City University) served as the coordinator, and the invited panelists were Mr. Choi Hyun Soo (South Korea), Mr. Singgih Kartono (Indonesia), Mr. Nimit Pipithkul (Thailand), Mr. Akira Okawa (Japan), and Mr. Eisuke Tachikawa (Japan).

Common understanding was shared that social enterprises energetically intervene in communities and support them.



パネリストの皆さん

次号(第20号)からURP Newsletterは、電子版(Web)のみとなります。
都市研究プラザのサイトをご覧ください。 <http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/archives/newsletter.html>

第11回ジョグジャカルタ都市研究フォーラム

Social Accessibility Through Culture

2013年2月18日(月)、ガジヤマダ大学にて第11回ジョグジャカルタ都市研究フォーラムが開催された。このフォーラムは、都市研究プラザ、インドネシア芸術大学(ISI)ジョグジャカルタ校、ガジヤマダ大学文化科学部の3大学の共催で運営されている。



フォーラム会場の様子(ガジヤマダ大学)

当日は、ガジヤマダ大学Pratikno学長のウェルカムスピーチ、水内俊雄(都市研究プラザ副所長/文学研究科教授)による基調講演に続き、Ika Putra氏(ガジヤマダ大学工学部教授)、李伴伴氏(工学研究科博士後期課程)、林朋子(都市研究プラザ特任助教)、Mimi Savitri氏(ガジヤマダ大学文化科学部講師)、Ario Wacaksono氏(ガジヤマダ大学社会・政治学部講師)、Retno Mustikawati氏(ISIメディア学部講師)、Alfi Luviani氏(ISI美術学部講師)、Jujun Kurniawan氏(ガジヤマダ大学文化科学部講師)(以上発表順)全8名が、「Social Accessibility Through Culture」というテーマのもと、歴史文化遺産、アート、交通、景観など多様な専門領域から、都市を構成するさまざまな層に対して文化が果たす(果たしてきた)役割、特に多様性の確保とエンパワーメントについての報告が行われ、活発な議論が交わされた。

■ 林 朋子(都市研究プラザ特任助教)



フォーラムの参加者たち

On February 18, 2013 the 11th Yogyakarta Urban Research Forum was held at Gadjah Mada University under the joint sponsorship of three university groups, the Urban Research Plaza, the Indonesian Institute of the Arts (ISI) Yogyakarta School, and the Faculty of Cultural Sciences of Gadjah Mada University. Reports were presented on the theme of 'Social Accessibility Through Culture' by a total of eight professors and students from the three universities, and they participated in vigorous discussions.

第11回バンコク都市文化研究フォーラム

Art Access and Advocacy - Promoting Creativity and Innovation in Urban Communication for the Development of Participatory and Happy Communities

2013年3月4日(月)~3月5日(火)にかけてバンコクのチュラロンコン大学にて第11回目となる都市文化研究フォーラムが開催された。このフォーラムはバンコクサブセンター(チュラロンコン大学内)主催で継続的に開催されているフォーラムである。

初日は、チュラロンコン大学、Pirom Kamolratanakul学長と大阪市立大学、西澤良記学長も参加し、協定調印式が行われた。



両大学長による協定調印式

中川 眞(都市研究プラザ兼任研究員/文学研究科教授)、Channarong Pornrungrroj氏(Director, The Office for National Education Standards and Quality Assessment, Thailand)、June Boyce-Tillman氏(Associate professor of Applied Music, University of Winchester, UK)による基調講演では、自然災害、経済破綻、政治的衝突など様々な状況のなかで社会から排除され孤立するコミュニティや個人が、アートの力によって社会へのアクセシビリティを高めていくことの重要性が述べられた。

また、タイ、日本からだけでなく、インドネシア、アメリカ、ノルウェー、デンマーク、スロベニアからの発表者によって、アートが社会に果たす役割について様々な角度から検証された。

■ 雨森 信(都市研究プラザ特任講師)



フォーラムの参加者たち

On March 4-5, 2013 the 11th Urban Cultural Research Forum was held at Chulalongkorn University in Bangkok. Presentations were made from many different perspectives on how communities and individuals who have been excluded and ostracized through natural disasters, economic collapse, or political conflict can have heightened access to society through the power of the arts.

第3回 東アジアインクルーシブシティネットワークの構築に向けたワークショップ

The 3rd Workshop for Building an East Asian Inclusive City Network

2013年2月20日(水)から22日(金)にかけて、都市研究プラザの主催で、第3回東アジア包摂型都市ネットワークの構築に向けた国際ワークショップを行なった。本ネットワークは、東アジア先進地域(日本、韓国、台湾、香港)における都市社会問題に取り組んでおり、各国の都市行政関係者や研究者が集まり、脆弱な都市地域に居住し、社会的な困難にさらされている集団や個人のニーズを重視した対策のあり方を検討する目的を有している。

背景には、近年の経済や産業再編のグローバルな圧力により、雇用、ヘルスケア、教育、ハウジングを含む社会保障、さらに市民権の課題が増えつつあることがある。さらに、都市空間においても、特定の地区が社会的排除や(再)開発事業等に直面しており、新たな包摂型地域再生の方法が求められている。

今回のワークショップには3日間で延べ約150人近い関係者が参加し、東アジアインクルーシブシティネットワークの発展に向けたさらなるステップ台となった。

■ ヒェラルド・コルナトウスキ(都市研究プラザ研究補助スタッフ)



会場となった西成プラザ

■ メインのセッションについて

3日間のワークショップのメインとなる22日のセッションは、西成プラザで行われた。前日までのワークショップに引き続き、東アジアにおける住宅困窮問題やその支援策が議論されるなか、奥田知志氏(NPOホームレス支援全国ネットワーク理事長)による基調講演が行われた。奥田氏はまず、日本におけるホームレス支援の系譜に触れ、1990年代半ば以降日本の就業構造が大きく変化したことにより、終身雇用層とホームレスの間に不安定中間層と呼ばれる就労層が出現したことを説明した。これまで日本の法律に基づくホームレスの定義は野外で寝ている人々に限られており、先進諸国と比べると極端に少ない数字であった。しかし、この不安定中間層がホームレス予備軍と仮定すると日本における生活困窮者の規模はたちまち増大する。

今後のホームレス支援の射程は、野宿者に限定することなく、不安定居住者層をいかに早期に対応することが課題と位置づけており、日本で新たに構築されようとしている困窮者支援制度の特徴は「経済的困窮」だけでなく「孤立」状態にあることも注目すべき点と述べた。



奥田知志氏による基調講演

今回の第3回国際ワークショップでは、東アジアにおけるそれぞれの政策や制度の違いがあるものの自国の問題や支援との比較という点で参加者からは大いに反響を得ている。台湾からのテレビ取材も入り、今後は政策や制度の観点からも議論できる機会を増やし、実務者同士の交流の場として発展していくことが期待される。

■ 富永哲雄(都市研究プラザ研究補助スタッフ/文学研究科後期博士課程)

■ エクスカーション:天六の福祉施設とその周辺地域の巡検

連日エクスカーションを用意したが2日目は、大阪市北区の豊崎東会館を会場とし、発表セッション終了後に天神橋筋六丁目周辺でエクスカーションを行った。



奥村健氏と岡本友晴氏による地域の案内

当日は、奥村健氏(みおつくし福祉会理事/更宿連会長)と岡本友晴氏(大阪希望館理事)の案内のもとで築後87年間の長い歴史を持つ建物を使用する大淀寮を見学した。本施設は、もともと宿泊所として利用されており、さらに、2002年に制定された「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」の下で自立支援センターおおよどが設立され、就労能力がある野宿者を対象に、短期滞在(3~6ヶ月)で就労支援を中心に自立支援を提供しはじめた。

さらに、周辺地域を散策し、低所得単身者向けアパートや地域に根付いた病院、自立支援センターが運営するアパートサテライトを見学した。その後、水内俊雄(都市研究プラザ副所長/文学研究科教授)が日本のホームレス支援